

「家の周りから見るぼうさいの意しき」

神奈川県 箱根町立湯本小学校 4年 ^{いわせ}岩瀬 ^{よしき}嘉希

最近、長い雨の日が続いています。外で遊べないので、学童の部屋の中で、卓球大会ばかりやっている気がします。

七月三日にテレビで見た熱海市の土砂さい害は、口が開いてしまうほどびっくりしました。土石流が山の方から一気に流れてきました。そこは川なのか道路なのかよくわからないじょうきょうで、家や車が押し流されていました。すぐはやいスピードで、水とどろがまじったようなものがうねりながら、流れているように見えました。とても重そうでした。道を歩いていた人たちはだいじょうぶだったのかなと心配になりました。土石流がきたら、もうにげられないと感じました。走ってにげても、車でにげても、ぜったいに追いつかれてしまう気がします。どうしたらいいのだろうと考えながら、テレビのニュースをみってみると、土石流が流れた真ん中の赤い家は流されていないことに気づきました。ふ通の木の家ではなく、四角い形のコンクリートでできているような家でした。一階のまどはわれていますが、二階はぶじのように見えます。じょうぶそうな建物の高いところににげれば、安全なのかもしれません。ぼくの家近くに研究所があります。三階建てでじょうぶそうです。ここなら、土石流がきても大じょうぶだと思います。

家族でひなん場所について話し合いをしました。七月のような長い雨が続いたとき、町の放送であぶないと言われたらどうするか、みんなで決めました。ぼくの家にはおばあちゃんがいます。ゆっくりで少ししか歩けないので、まずは早めにい動しようと決めました。しかし、ひなん所は、学校のすぐ横の集会所だったので、長い坂を登らないといけないし、おばあちゃんが歩いたら一時間もかかってしまうかもしれません。車の運転ができる人がいないときは、歩いてにげられないので、ぼくがおばあちゃんをつれて研究所に助けてもらうことになりました。ぼくは、にげる場所が決まってほっとしました。

八月の初めのころ、町の回らん板で、はこね防さいマップがくばられました。土砂さいがいとこう水ハザードマップでした。ハザードマップは、地図になっていて、色んな色がついていたり、学校や集会所の位置が書いてありました。自分の家がよくわからなかったので、お兄ちゃんが教えてくれました。まず自分の家にマークをつけてみると、そこは青くなっていて、しももようがついていました。色の説明をみると、三メートルみまんのしん水と土砂さいがいのけいかい区いきでした。家のそばにある大きな川から水があふれだした時、水が流れこんでくる、そして道路の反対側でおきた土石流が流れてくるかもしれないということです。これはこまったと思いました。家が流されてしまうかもしれないのですから。でも、あまりこわくはありませんでした。命を守るために、どうしたらいいのかは、熱海市の土砂さいがいのニュース番組で「早めのひなんと命を守る行動をしてください」と言ってました。あぶないと思う前に、おばあちゃんをつれて、すぐ近くの研究所にひなんしようと思っています。そうすれば、後で家族がむかえに来てくれるので安心です。

ぼくの家窓から、大きな山が見えます。その山をみていると、一カ所だけへこんでいるところがありました。お母さんに聞いたら、昔大雨がつづいたあと、そこだけ木や土が流され、山がへこんでいたそうです。それって小さな土石流がおきたのではないかと思うと、とてもこわくなりました。はこね防さいマップにもものっていません。家のまわりには、知られていないきけんがあったことがわかりました。きけんはどこからやってくるのかわからないので、ぜったいに早めのひなんをしたいと思います。